

気管支鏡による合併症に関する調査について

気管支鏡検査は呼吸器内科領域で広く行われており、種々の呼吸器疾患の診断に役立っています。重篤な合併症はまれであり安全な検査ではありますが、合併症をできる限りなくすよう日々工夫・努力を行っています。中でも気胸は痛みや呼吸困難などの症状を伴い、短期間の入院を必要とすることがあり、重要な合併症と考えています。しかしどのような疾患で多いのか、どのような要因と関連があるのか、まだよくわかっておりません。それを明らかにするため過去5年間に当科で行った気管支鏡検査について調査を実施中です。

この調査研究では、患者様ご自身に直接の利益はありませんが、検査による合併症リスクを将来減らすことができる可能性があります。この調査研究では新たに患者さんの負担やリスクが生じることはありません。

この研究について詳しくお知りになりたい方はいつでも遠慮なく担当の先生にお申し出下さい。他の患者様に支障がない範囲で、調査に関する資料（調査の実施計画書など）や利用させていただく患者様の情報をお見せ致します。またあなたご自身に関する情報について、調査へ利用されることをお断りになる場合も遠慮なくお申し出下さい。一切の情報を調査研究に使用しないように致します。

○ご利用させていただく情報

年齢、性別、喫煙歴、生検回数、生検部位、検査後気胸の有無、検査医の経験年数、肺気腫合併の有無

○プライバシーは守られます

この研究結果は学会や学術雑誌で公表しますが、結果は情報をまとめた形で報告され、あなたのお名前などの個人情報は一切わからないようにしますので、プライバシーは守られます。

日本赤十字社和歌山医療センター
研究責任者 呼吸器内科副部長 池上 達義